

平成18年度東北ブロック水産業関係研究開発推進会議報告書

会議責任者	東北区水産研究所長
-------	-----------

1. 開催日時及び場所 日時：平成18年12月11日（月）13:30～17:30
12月12日（火）9:00～12:30
場所：塩釜商工会議所（塩竈市尾島町17-8）
（議事次第：別添1）
2. 出席者所属機関及び人数 20機関 33人 （出席者名簿：別添2）
3. 結果の概要

議 題	結 果 の 概 要
（1）東北ブロック研究開発推進会議の運営について	H18.4の規程改正に伴う本会議の名称変更の経緯について説明がなされ、名称変更に伴う運営規程・細則の確認を行った。
（2）ブロックにおける連携協力について	
1) 研究開発体制の現状と問題点に関する報告	東北ブロック各機関が抱える研究開発推進上の問題点、また本年度の主要魚種の漁況について、主要研究課題の進捗状況の概要、H19年度予算獲得に向けた新たな研究課題計画の概要が報告された。①各県が共通して抱える問題として、次年度以降の大幅な予算削減、定員削減が計画されていること。②地方独立行政法人の移行については、各県ともに現段階では見送られているか、または検討されていない。③種苗放流によるホシガレイの資源増大に関する研究の必要性が宮城県及び福島県から報告された。④ワカメ養殖業生産システムの見直し及びマツカワ放流効果に関する研究の必要性が岩手県から報告された。⑤ヒラメ若年魚の海中養殖技術、ヤリイカの資源管理・流通加工技術に関する研究の課題化を計画中であることが青森県から報告された。⑥シラス漁獲量予測手法の開発現状が茨城県から報告された。⑦予算獲得の手立てとして科研費などによる外部資金獲得の必要性が報告された。⑧水研センター所属調査船のファンネルマーク変更が報告され、関係機関への周知が要請された。

議 題	結 果 の 概 要
2) 研究開発の重要課題に関する意見交換	<p>①ホシガレイ：遺伝的多様性と放流技術の向上をテーマに宮城県、福島県、東北大、宮古栽培センター、東北水研にて高度化事業に応募を計画していることが紹介された。各県からホシガレイの種苗生産の現状と業界要望について説明がなされた。東北水研からホシガレイの課題化について各機関に協力要請がなされた。</p> <p>②モニタリングについて：東北ブロック海洋環境部会の協議結果をふまえ、定線モニタリングパンフの発刊が東北水研から提案された。各県からパンフについて感想、要望が述べられた。各県とも同パンフの発刊に賛成である。モニタリングの必要性については漁業者からの後押しが必要であり、同パンフについては漁業者にはわかりやすい内容としていただきたいとの要望が大勢を占めた。各県との情報交換、意見を取りあげながら同パンフを発刊するという方針が了承された。</p>
(3) ブロックにおける調査研究活動について	
1) 平成 18 年度部会活動の報告と計画について及び平成 17 年度における協議事項のフォローアップについて	<p>①本会議に先立って開催された漁業資源部会、海洋環境部会、海区水産業部会及び関連分科会の概要が報告され、各部会報告が了承された。</p> <p>②海洋環境部会におけるCTDなど観測器機のキャリブレーション費用軽減の検討状況が報告され、水研センターでの本部一括契約の可能性について検討するよう本部に要請がなされた。</p> <p>③漁業資源部会と海洋環境部会で了承されていたH19年度における両部会の合同開催が本会議にても了承された。</p> <p>④青森県から「マナマコ資源維持に係わる増養殖技術の開発」について北水研と高度化事業における課題化を計画中であることが報告され、全国場長会議における東北ブロック及び北海道ブロック場長会議からの要望事項とする旨提案があり、了承された。</p>
2) H18 年度研究開発成果情報について	<p>①東北ブロックに係わる研究成果情報として、青森県から4件、岩手県から3件、宮城県から3件、福島県から1件、東北水研から3件、宮古栽培センターから1件の提出があり、内容を確認した結果、全ての課題が成果情報として了承された。</p> <p>②東北水研から、成果情報の選出については他独法の例も参考として、東北ブロックから発信される成果情報のレベルアップに務めるとの意見が述べられた。</p>

議 題	結 果 の 概 要
(4) その他	
1)H19 年度における東北ブロックサンマ研究集会開催の提案	<p>①東北水研から以下のとおり提案主旨が説明された。近年、サンマ、サバの水揚げ価格の暴落が問題となっている。この魚価安は直接的に漁業の経営を圧迫して沖合漁業の継続を危機的な状況に陥れている。また、大量に漁獲しないと金額が稼げないので、TAC を上回る漁獲を要求することになりがちで、資源管理にも大きな影を投げかけている。提案した研究集会では、これを主に産地の加工処理能力の変化という観点から分析し、その対策を考えることを目的とする。</p> <p>②研究会の開催について活発、率直な意見交換があり、各県とも、論点を再整理した上で開催に賛成であることが表明された。</p> <p>③協議の結果、提案研究集会を開催する方針とすること、開催にあたっては各県と密接に意見交換、相談、情報交換を図り、企画内容を整理することを申し合わせた。</p>
2) 科研費の獲得手続き及び農学情報資源システムの利用法について	<p>標記について配付資料にそって説明がなされた。</p>
3)海面漁業生産統計調査の改正点について	<p>標記について配付資料にそって説明がなされた。</p>
4) 会議運営に関する各機関の意見	<p><u>水研センター</u>：良い雰囲気、ちょうど規模で、形式的ではなく活発な論議があった。</p> <p><u>水産庁</u>：地域のニーズに基づく提案がなされている。今後も、取り組みを進めてほしい。</p> <p><u>宮城</u>：初めての参加、論議の中身が密度濃くよかった。</p> <p><u>福島</u>：これまでは水研に呼びつけられている感じだったが、今回は実質論議でよかった。</p> <p><u>青森</u>：今回のやり方で良かった。</p> <p><u>岩手</u>：代理出席。場長に是非出席を要請する。</p> <p><u>茨城</u>：予算減や人員減については今後も意見交換したい。</p>

平成18年度東北ブロック水産業関係研究開発推進会議
議事次第

期 日 : 平成18年12月11日 (月) 13:30-17:30
12月12日 (火) 9:00-12:00

場 所 : 塩釜商工会議所
(塩釜市尾島町17-8 TEL:022-367-5111)

[12月11日 (月) 13:30-17:30]

開 会

挨拶

主催者 (東北区水産研究所長)

来賓 (水産庁)

議 事

1. 東北ブロック推進会議の運営について
2. ブロックにおける連携協力について
 - (1) 研究開発体制の現状と問題点に関する報告 (各機関)
 - (2) 平成17年度における協議事項のフォローアップ (東北水研)
 - (3) 研究開発の重要課題に関する意見交換 (各機関)
ー研究開発ニーズ、外部資金の獲得 (ホシガレイ)、モニタリング等ー

[12月12日 (火) 9:00-12:00]

3. ブロックにおける調査研究活動について
 - (1) 平成18年度部会活動の報告と計画について (東北水研)
 - (2) 平成18年度研究開発成果情報について (各機関)
 - (3) その他
ーサンマに関する議論ー
4. その他 (連絡事項等)

閉会

平成18年度 東北ブロック水産業関係研究開発推進会議 参加者名簿

所 属	職 名	氏 名
青森県水産総合研究センター	所長	澤田 満
青森県水産総合研究センター 増養殖研究所	所長	田村 眞通
青森県ふるさと食品研究センター	所長	平野 忠
青森県ふるさと食品研究センター 下北ブランド研究開発センター	所長	長津 秀二
岩手県水産技術センター	副所長	関口 勝司
宮城県水産研究開発センター	所長	西堀 修一
宮城県気仙沼水産試験場	場長	児玉 純一
宮城県水産加工研究所	所長	新田 信一
宮城県栽培漁業センター	所長	塚田 輝夫
福島県水産試験場	場長	高越 哲男
福島県水産種苗研究所	所長	石井 孝幸
茨城県水産試験場	場長	川前 政幸
水産庁増殖推進部 研究指導課	課長補佐	中奥 龍也
仙台漁業調整事務所	資源課長	坂内 裕
仙台漁業調整事務所	資源管理係長	泉 賢作
仙台漁業調整事務所	許可係	小林真一郎
水産総合研究センター		
本部	業務推進部長	玉井 恭一
本部	業務推進部研究管理課長	竹葉 有記
さけますセンター	資源研究室長	長谷川英一
さけますセンター	技術開発室長	浅井 久男
水産工学研究所	業務推進部長	武内 智行
日本海区水産研究所	業務推進課長	鵜沼 辰哉
瀬戸内海区水産研究所	化学環境部長	有馬 郷司
東北区水産研究所	所長	關 哲夫
	業務推進部長	石田 行正
	混合域海洋環境部長	平井 光行
	海区水産業研究部長	佐古 浩
	八戸支所長	水戸 啓一
	管理課長	小山 勉
	若鷹丸船長	船戸 健次
	業務推進課長	尾形 博
	調査普及課長	小村 祐悦
	情報係長	平岩 美希